

大学における主権者教育の実践 ～Voters Café in 昭和女子大学～

澄田 知子¹

The Practices of Citizenship Education in the University : “Voters Café” in Showa Women’s University

Tomoko Sumita

1. 問題意識

本研究は、2016 年、選挙権年齢が 18 歳に引き下げられたことを契機に、若者の政治参加促進をテーマとして開始したものである。初年度（2016 年度）は、18 歳選挙権が実現して初めての国政選挙（第 24 回参議院議員選挙）が行われたことを受け、昭和女子大学の学生 313 人に対し、選挙に焦点を当てたアンケート調査を行った²。次年度（2017 年度）は前年度調査の結果を踏まえ、若者の政治参加に取り組む団体へのインタビューやアンケート調査を行いながら、インターネット投票も視野に入れた投票環境、政策形成過程への若者参加、政治や選挙に関する情報環境及び教育環境についての現状や問題点を整理した³。

2 年間の調査を経て浮かび上がった課題の一つが、18 歳と 19 歳の投票率格差である。18 歳選挙権の導入に当たっては、全国の高校等で主権者教育の取組が活発化した⁴。その結果、2016 年の参議院選挙では、18 歳の投票率が 51.3%、19 歳が 42.3%と、20 代（33.2%）と比較して顕著に高く、主権者教育等の努力が奏功したものと、その後の投票参加にも期待が持たれていた。しかし翌 2017 年に行われた衆議院選挙では、10 代の有権者の投票率は、18 歳、19 歳共に参院選時と比べて低下した（18 歳：47.9%、19 歳：33.3%）。とりわけ、参院選時に 18 歳だった有権者の投票率が、19 歳になった衆院選時に大幅に低下してしまったことは、若者の投票率の向上を図ることの難しさを改めて浮き彫りにした。

19 歳の投票率が低くなる大きな要因として、19 歳以上になると高校までとは異なり、主権者教育等の啓発を効果的に行える場が非常に少なくなることが指摘できる⁵。この点について、

¹ 昭和女子大学 現代ビジネス研究所 研究員

² 澄田知子（2017）「女子学生の政治意識——昭和女子大生に対する調査から——」昭和女子大学現代ビジネス研究所 2016 年度紀要＜資料＞（http://swubizlab.jp/wp/wp-content/uploads/2017/03/2017_009.pdf）

³ 澄田知子（2018）「若者の政治参加促進に係る取組の現状と課題」昭和女子大学現代ビジネス研究所 2017 年度紀要＜活動報告＞（http://swubizlab.jp/wp/wp-content/uploads/2018/03/2018_014.pdf）

⁴ 文部科学省と総務省は 2015 年 12 月に共同で全国の高校に副教材「私たちが拓く日本の未来」を配布するなど、高校を中心とした主権者教育に力を入れ、2017 年度の卒業生については 9 割以上の学校で主権者教育が実施された。

⁵ このほか、19 歳になると進学や就職等で親元を離れる若者が多いが、その際住民票を異動させないことから、現住所で投票権がないという要因も大きい。

20 歳前後の若者が多く集まる大学の果たす役割は大きい⁶。また、2017 年度の調査からは、啓発の在り方について、「選挙に際して投票率向上を狙った場当たりの啓発を行っても効果は薄く、政治を自分のこととして捉えられるような機会を作って日ごろから政治に関心を持てるような環境を整えることが重要」ということも明らかになった⁷。

2. Voters Café の企画・開催

以上のような問題意識の下、今年度は、昭和女子大学の学生とともに大学における主権者教育の在り方について考えながら、学生を対象に若者の政治参加促進を目的としたイベントを企画・開催することとした。

若者の政治参加促進を目的としたイベントは、各地の選挙管理委員会や学生団体、NPO などが、講演会方式や模擬投票、出前授業など様々な形式で実践している。そうした中、昭和女子大学の学生においては、政治家を招いた講演会等を聴く機会は既に存在していること、また 18 歳を超え一度は投票の経験もある学生が多いと想定される⁸こと等から、講演や模擬投票等よりむしろ、政治を自分のこととして考えることに焦点を当てた機会を提供することが相応しいと考えた。そこで、イベントを企画するに当たり、NPO 法人 YouthCreate と協働し、同法人が豊富な実績を持つ“Voters Café”を本学で開催することとした。“Voters Café”は、地方議員と若者との対話型イベントで、議員が「ゲスト」ではなく「参加者」として、若者たちと同じ目線で話し合いに参加するところに特徴がある。同法人はこれまでにこうしたイベントを全国 35 か所以上で実施しており、参加者約 800 名、参加議員約 150 名の実績がある。

イベントの開催に当たっては、昭和女子大学現代ビジネス研究所の研究助成金を得て、2018 年 5 月に学生を募集し、2 名の学生及び YouthCreate のメンバー（学生含む）と共に、10 月末のイベント開催を目指して毎月 1~2 回のペースでミーティングを行った。8 月からは、若者の政治参加に関して研究を行っていた他大学の学部生 1 名も活動に加わった。ミーティングでは、イベントのテーマ設定、参加議員候補、イベントの告知方法などについて議論を重ね、どのようにすれば政治に関心のない若者にも参加してもらえるか、また「参加者」である議員にとっても価値あるイベントになるか検討を行った。YouthCreate はこれまで多くの議員との対話型イベントを実施してきたが、女子大での開催は初めてであったため、より女子大生の興味を惹くテーマ、構成、議員の選定ができるよう時間をかけて議論した。

まず、第 1 回ミーティングでは、昭和女子大の学生は政治の中でどのような分野に興味があるかについて話し合った。しかし、「学生はそれほどニュースも見ないし、政治的な話題には興味がないのではないか」という結論になった。そこで、視点を変え、今後のキャリアやライフプランの形成、女性の社会活躍といった側面から若手女性議員に話を聞く機会という位置づけ

⁶ 総務省の常時啓発事業の在り方等研究会報告書（平成 23 年 12 月）、主権者教育に関する有識者会議とりまとめ（平成 29 年 3 月）においても指摘されており、後者では特に、政治学等の科目を履修しない学生に対していかに幅広く主権者教育を行いうかが課題であるとされている。

⁷ 前掲注 2 参照。

⁸ 2016 年度調査では、昭和女子大学の学生の投票率は 70%を超えていた。

での企画を検討した。出産や子育てを経験している議員を呼んで、幅広く女性のキャリアを考える機会とすれば、“政治的な話題”をテーマにするよりも学生参加者のすそ野を広げる可能性があるのではないかということで、次第に方向性が定まっていた。

第 2 回及び第 3 回ミーティングでは、議員にどのような質問がしたいかを考えながら、テーマの深掘りを行った。質問したい事項を挙げていったところ、議員という職業について、女性の活躍について、若者の政治参加・政治教育について、自身の大学生活についてなど、30 項目以上に及んだ。イベントの開催時間が 90 分と限られているため、これらの質問をできるだけカバーできるよう、事前の準備や全体の構成についても検討した。まず誰もが興味を持ちそうで、かつ簡潔に回答してもらえそうな事項については予め参加議員にアンケートをとり、当日の配布資料に掲載する。イベントを 2 部制とし、前半（第 1 部）は女性とキャリアについて議員から話を聞くトーク・セッション、後半（第 2 部）は政治に対するイメージや、どのようにすれば政治が身近になるかといったアイデアについて参加者全員で自由に議論する形とした。

参加議員候補者については、東京都議及び東京周辺の市議・区議等を、インターネット（議員のホームページ、ブログ、SNS、議会議事録等）を活用しながらピックアップした。候補者リストには男女合わせて 13 名の議員が挙がり、スタッフの投票で順位付けを行って、上位の議員からイベント参加への打診を行った。その結果、2 名の女性地方議員から参加の回答を得ることができた。

第 4 回及び第 5 回のミーティングでは、イベントの告知方法⁹について確認するとともに、当日の役割分担を決定し、イベントの進行についてさらに詳細に検討していった。募集する参加学生の数については、全員が議員を身近に感じられ、活発に議論に参加できる規模とするため、15 名に限定することとした。

3. “Voters Café in 昭和女子大学”の概要

イベント当日は、15 名の参加者に 3 つのテーブルに分かれて着席してもらい、それぞれのテーブルで簡単な自己紹介をした後、学生スタッフの進行の下、第 1 部の議員トーク・セッションを開始した。2 名の女性参加議員からは、議員になった背景や、現在どのように議員の仕事と家庭の両立を図っているかなどについて話を伺った。第 2 部では、ホームページの告知を見て参加して下さった男性議員を含め 3 名の議員にそれぞれ 3 つのテーブルについていただき、学生参加者とともに第 1 部の感想を共有した後、①政治に対するイメージ、②どうすればもっと若者が政治に参加するか、という 2 つのテーマについて話し合っていた。それぞれのテーブルには、学生スタッフもファシリテーターとして参加した。

①については、難しい、つまらない、男社会といった意見のほか、スポーツや芸能のニュースに隠れてしまっておりいつのまにか採決が行われているといった意見も出た。また②については、学校で習う政治は制度や数字などが中心なのでもっと身近なものだと気づくような教育が必要なのではないか、政治家も自分たちと同じ人間と考えるきっかけがあるとよい、ゲーム

⁹ 昭和女子大ホームページ及び学生向けサイト、YouthCreate ホームページ、フライヤーの配布等。

に取り入れて楽しみながら接するのがよいのではないかといった意見が出た。

4. イベントの成果及び今後の課題

イベント終了後に行ったアンケートでは、回収できた 10 名中 6 名が本イベントに「とても満足」、残り 4 名が「やや満足」と回答しており、全体として満足度の高い結果であったと思われる。一方、改善すべき点としては、もっと話し合える時間がほしかったという意見が多数見られた。また、フリーアンサーでは、議員から直接話を聞ける貴重な機会だった、同世代の人と政治に関してざっくばらんに話せる場がないので楽しかった、政治が身近に感じられたといった意見が複数見られた。参加議員からも、学生の意見を直接聞ける貴重な機会だったとの感想をいただいた。

スタッフの最終ミーティングでも、イベント全体が和やかな雰囲気が進み、話し合いの内容も非常に充実していたとの実感が共有された。実施前は、ディスカッションで時間が余ってしまうことを懸念する学生スタッフもいたが、1 テーブル 5~6 名という人数は全員が話に主体的に参加するのにちょうどよい規模で、3 つのテーブルいずれも話が盛り上がり、むしろ時間が足りなくて残念だったという感想で一致した。また複数の学生スタッフから、本イベントを通じ人脈が広がり、次の活動につながり始めたことが大きな成果との感想が聞かれた。一方、当日参加した学生全員が昭和女子大学外から申し込んでおり、学内からの参加が 1 名もなかったということは、今後企画を考える上で大きな課題として残された。

今回のイベントは、政治にある程度興味がありながら話をできる場や相手がなかった学生、その興味を次の行動につなげられないでいた学生にとっては、一つの出会いの場を提供し、それぞれの関心に合わせて一歩踏み出せる機会となった。また、議員に若者と同じ立場で参加してもらい、若者、とりわけ今後社会での活躍が期待される女子学生がどのような考えを持っているかということ（政治にほとんど関心がないことも含め）実感してもらったことも、若者目線での政策立案に資するものであったと考える。こうした機会を積み重ねることは、若者が政治への関与を深めていく上で、時間はかかるが確実な一つの方法と思われる。

一方で、今回の参加者のほとんどは、過去に政治に関するイベントや議員インターン等の経験がある学生であり、これが初めてという学生はごく少数であった。政治にあまり関心のない学生を惹きつけるには、今回のようなイベントでは力不足であるため、大学における主権者教育については、学部や学科に関わらず受講できる講義や必修科目の一部に組み込む等、大学のカリキュラムを活かした取組の一層の充実が望まれる。

投票率の動向等を見ると、若者の政治参加促進を図る上で大学の果たす役割は非常に大きいと考えられが、大学における主権者教育は、小中高校に比べて実践も研究も未だ少ない。今後の実践及び研究双方の蓄積が期待される。